

北陸新幹線開業効果の持続発展に向けて

石川県土木部道路整備課／道路建設課／都市計画課

1. 新幹線開業効果を持続・発展させる幹線道路の整備

石川県では、広域幹線道路整備の基本方針として、平成8年度に「県土ダブルラダー構想」を、その後、平成18年度に「ダブルラダー結いの道」整備構想を策定し、これまで、南北に細長い県土（能登～金沢～加賀）の一体化や三大都市圏との交流拡大、観光周遊性の向上、災害時の代替性（リダンダンシー）の確保を目指して、県内の南北幹線の複線化と東西幹線の多重化による、2本のはしご（ラダー）状道路ネットワークの整備に取り組んできました。

特に、本県にとって長年の悲願だった北陸新幹線金沢開業を見据え、その効果を県下全域に波及させるため、能登と金沢を結ぶ大動脈である「のと里山海道」（旧 能登有料道路）を当初の予定を前倒しして平成25年3月に無料化したほか、能登地域の広域交流を促進する能越自動車道七尾氷見道路や、金沢都市圏の交通円滑化を図る金沢外環状道路 海側幹線（白山市乾町～金沢市大河端町間）、加賀地域の観光や産業を支援する加賀産業開発道路等を完成・供用してきました。また、加賀温泉郷へのアクセス向上を図る南加賀道路についても全線約33kmのうち約8割に相当する約26kmを供用しています。

こうした広域幹線道路の整備により、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業以降、金沢はもとより、加賀や能登においても観光客が



金沢外環状道路 整備状況図



のと里山海道



南加賀道路（加賀市曾宇～河南間）



能越自動車道七尾氷見道路

大幅に増加するなど、県下全域で大きな効果が現れています。

今後もこうした新幹線開業効果を持続、発展させていくため、今年3月に、これまでの構想を継承・発展させた「ダブルラダー輝きの美知（みち）」構想を策定しました。

本構想では、これまで整備してきた南北幹線を4車線化などにより骨太化するとともに、新たな東西幹線を追加し、県土を隈無く網羅する幹線道路網を形成することにより、県土の更なる一体化を進め、

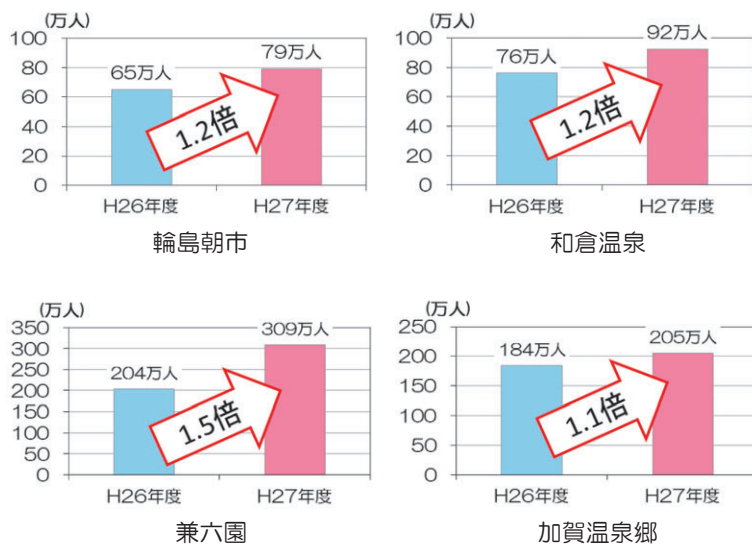
- ・1泊2日の旅行でも気軽に金沢以外を観光できる、金沢プラス1観光の促進
 - ・能登・金沢の時間距離を短縮し、能登を通勤可能生活圏へ
 - ・金沢港の振興と加賀の企業立地を通じた拠点性の強化
 - ・大規模災害時の迅速な避難救援活動の実現
- 等を図ることとしています。

なお、構想の名称については、既存の幹線道路ストックを活用して、4車線化などにより一層の磨きをかけ、輝かせることを目指すことから「輝き」という言葉を用いたほか、多くの方がこれらの道路を利用して、本県が誇る多彩な地域資源の「美しさ」を「知る」ことで、本県のファンになっていただきたいという想いを込めて、道（みち）の代わりに「美知（みち）」の字を当てています。

今後は、本構想に基づき、人とももの交流を拡大し、本県の更なる発展に資する幹線道路の整備に取り組んでいきます。

新幹線開業前後の県内観光地入込客数

※温泉については宿泊客数



「ダブルラダー輝きの美知（みち）」構想

金沢プラス1観光の促進

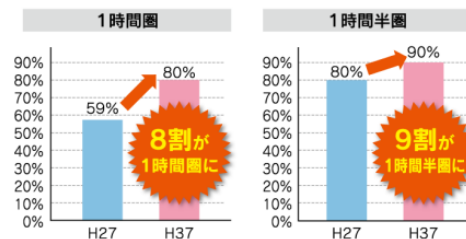
金沢から県内各地への移動時間の短縮により、1泊2日の旅行でも気軽に金沢以外を観光することができます。



能登を通勤可能生活圏へ

能登・金沢の時間距離を更に短縮し、能登から金沢への通勤を可能とします。

■能登地域※から金沢への通勤可能人口の割合



※能登地域は河北郡以北

金沢港と加賀地域の拠点性の強化

金沢港へのアクセスを向上し、金沢港の振興と加賀の企業立地促進を通じた拠点性の強化を図ります。



災害時の代替性の確保

信頼性の高い道路ネットワークの整備により、津波等の大規模災害時の迅速な避難・救援活動を支えます。



「ダブルラダー輝きの美知（みち）」構想により期待される効果

2. 金沢中心部における歩行環境の向上

1) 背景と対応

北陸新幹線金沢開業により増加した歩行者の回遊性向上を図るため、国・県・金沢市からなる連絡調整会議を同年7月に設置し、歩行者のニーズ調査や歩行環境向上施策の検討を進めてきました。

まずは、観光客から「観光地に向かう途中で迷った」等のご意見が多く聞こえてきたため、同年10月に、金沢駅から近江町市場、金沢城公園、ひがし茶屋街を結ぶルート上に観光地までの距離や方向をわかりやすく提供する「路面標示」の試験施工を実施しました。



図－1 観光客でにぎわう金沢駅通り線

2) 歩行者のニーズ調査

約400人の観光客への聞き取り調査の結果、「観光施設を広範囲に示した案内サインが少ない」「大通りから観光施設への分岐点が分かりづらい」など、案内サインの充実へのニーズが多くを占めました。

また、「路面標示の試験施工」に関する聞き取り調査では、「ルート上にあり距離と方向がわかりやす

い」など約9割の方から高評価を頂きました。

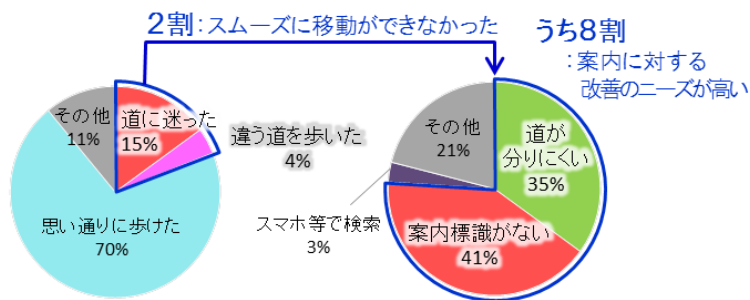


図-2 歩行者のニーズ (快適性、改善点)

3) 案内サインの改善

このような、歩行者のニーズ調査や路面標示の試験施工の結果から、まち歩きをより一層楽しんでいただくため、「観光客の目線に立った多様できめ細やかな案内サインへの改善」が必要と考え、下記の3種類の案内サインを適切に組み合わせ配置することとしました。

- ①広域サインの設置：主要な交差点で広範囲な観光施設を案内
- ②周辺サインの改善：既存サインの表示内容を主要観光施設に変更
- ③路面標示の設置：大きな交差点や幹線道路からの入口等において、広域・周辺サインと合わせ、より丁寧に主要観光施設を案内

また、路面標示の本格設置に際しては、視認性を向上させるなど更なる改良を加え、試験施工のエリアに加え香林坊や兼六園下周辺など市内中心部にも範囲を拡大し、計47枚を設置することとし、これら案内サインの改善を新幹線開業1周年までに完了しました。

< 位置図 >



図-3 案内サインの改善位置図



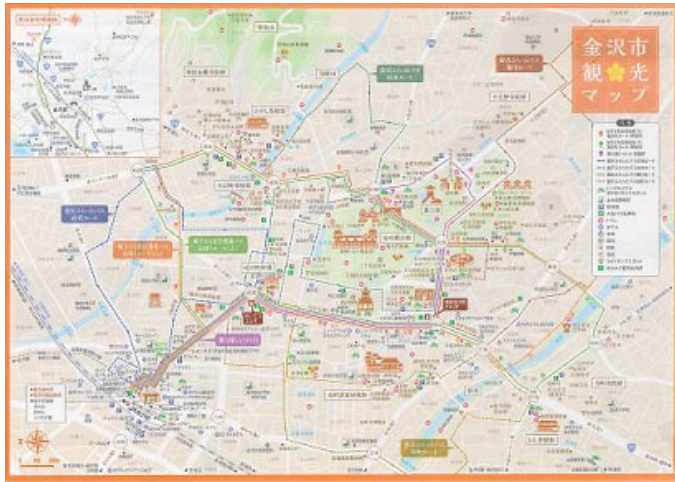
図-4 広域・周辺サインの改善



図-5 路面標示の設置

4) 多様な「歩行環境向上施策」

観光客へのアンケートの声に基づき、連絡調整会議では案内サインの改善のほか、「観光マップの改定」や「観光客を沿道の花や緑でおもてなし」など、より楽しく・快適にまち歩きを楽しんで頂けるよう、多様な取り組みを展開しました。



「金沢市観光マップ」(27年度170万部発刊)
・平成27年10月に改定
→トイレ、バス停、レンタサイクル、縮尺を追記



「金沢駅通り線(金沢駅～武蔵交差点)」
・県・市併せプランター150基追加
→パンジー、アリッサム、葉牡丹など

5) 新幹線開業効果の持続・発展

歩行者へのきめ細やかなで迅速なおもてなしが、本県のリピーターづくりの観点からも非常に有意義と考えており、今後も引き続き、新幹線開業効果の持続・発展を図るため、観光客の声を聞きながら、更なる歩行環境の向上に積極的に取り組むこととしております。

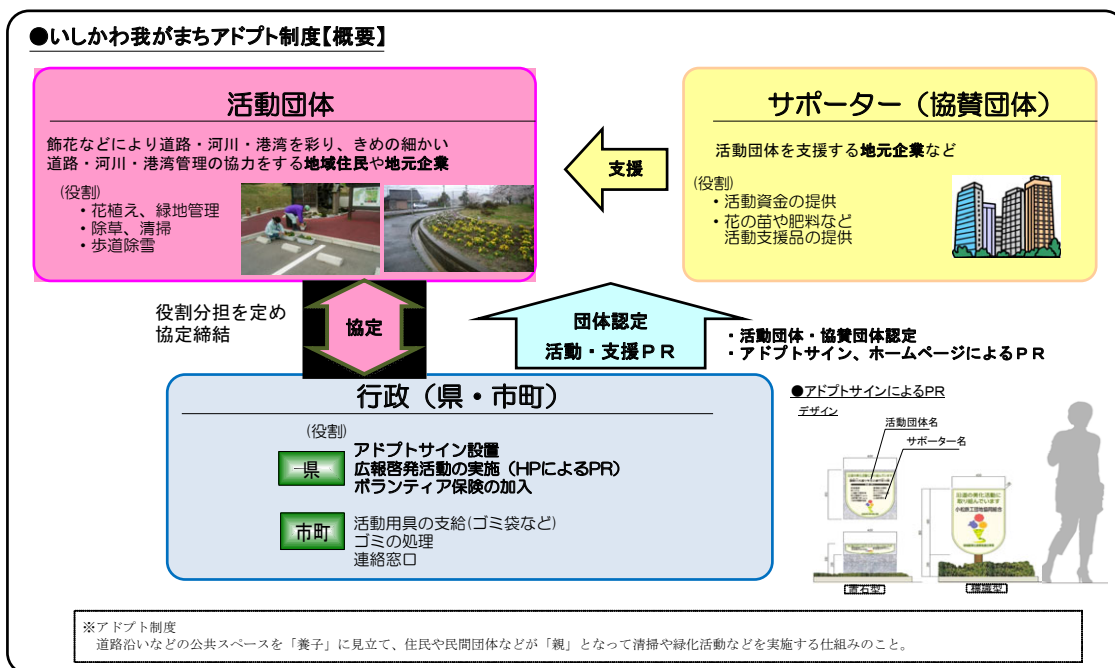
3. 道路管理（アドプト制度）

また、観光客を良好な景観で「おもてなし」するため、道路・河川・港湾において「いしかわ我がまちアドプト制度」を設け、官民が一体となって花植えや清掃、除草等の美化活動を実施しています。

1) いしかわ我がまちアドプト制度の特徴

一般的なアドプト制度は、行政がゴミ袋などの活動用具や花苗の支給などを行うものであるのに対し、本制度では、地元企業による資金や物品提供といった活動支援の仕組みを取り入れ、沿道の住民を中心とした活動団体のみでなく、地元企業をサポーターとして含め、地域が一体となって、良好な道路景観を創出するものとなっています。

県としては、アドプトサインの設置やホームページの開設による活動紹介、ボランティア保険への加入といった活動支援を行っています。



2) 取組状況

これまでに、県内全体の道路活動団体として 40 団体を認定し、このうち、平成 28 年度は 6 団体を認定し、この制度のさらなる普及に努め、地域と一体となって魅力ある景観形成ときめ細やかな維持管理に努めています。



4. 冬の安全安心の確保

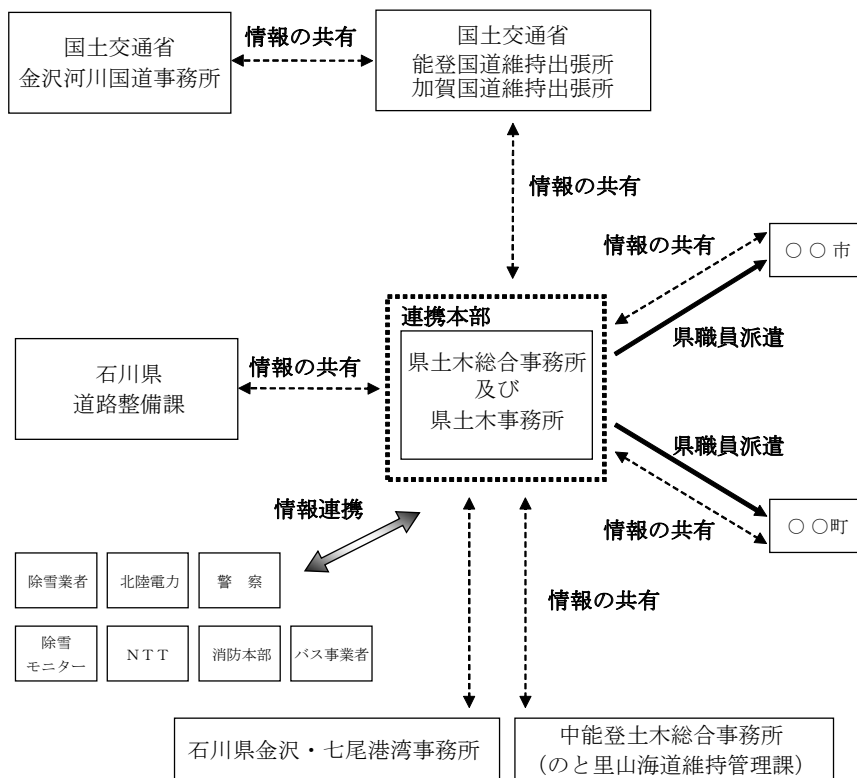
さらに、県外から訪れる雪道に不慣れな観光客に、冬でも安心して県内の魅力ある観光地を巡っていただけるよう、雪に強い道づくりを目指し、除雪作業にも取り組んでいます。

具体的には、これまでの平成 13 年及び平成 16 年の金沢市を中心とした集中豪雪、並びに平成 21 年の七尾市を中心とした集中豪雪による冬期交通の混乱を受け、「除雪体制の強化」「雪みちネットワーク路線の優先的確保」「関係機関との連携」「県民への速やかな情報提供」の 4 つの対策により、ゲリラ的豪雪にも強い除雪体制を構築しました。

1) 除雪体制の強化

除雪体制を平常・注意・準警戒・警戒・緊急の5段階に細分化し、県内33箇所ですらめた地域警戒積雪深や気象情報等を基に、速やかに体制を移行し強化を図ることとしました。

特に、準警戒体制に移行した場合には、「地域防雪連携本部」(図6)等を開設し、各関係機関からの情報の収集・伝達・共有を図る体制としました。



図ー6 地域防雪連携本部

2) 雪みちネットワーク路線の優先的確保

過去の大雪に伴う冬期交通の混乱を受け、幹線道路及びその代替道路、救急告示病院や消防署へのアクセス道路を雪みちネットワーク路線としてあらかじめ設定し、大雪時には優先的に除雪を行うこととしました。

3) 関係機関との連携

大雪時には、道路管理者（国土交通省、石川県、各市町、中日本高速道路（株））及び交通管理者（石川県警）間で連携して、優先的に雪みちネットワーク路線の確保を図ることとしており、状況に応じ、各道路管理者間の相互応援を行うこととしました。

4) 県民への速やかな情報提供

冬期の交通確保のためには、道路利用者への迅速かつ適切な道路情報の提供が必要と考え、県ホームページ「石川の雪みちなび」(図7)を開設し、県内の道路監視カメラによる道路画像や、積雪センサーによる降積雪状況の提供を行うこととしました。

また、降雪期前に、自治体の広報誌等を活用し、雪みちネットワーク路線の周知、除雪体制、冬用タイヤの早期交換や路上駐車禁止、住民の除雪協力などの啓発に努めることとしました。



図ー7 石川の雪みちナビ

本県では、これらの豪雪にも強い除雪体制の運用を確認するため、内容を知らせずに行うロールプレイング方式による訓練を毎年実施しており、今後いつ豪雪が発生しても、円滑な交通が確保できるよう備えています。

また、北陸新幹線開業に伴い、県外から訪れる観光客等に冬用タイヤの装着を促すなど、降雪時の道路の危険性を再認識してもらい、安全運転を呼びかけ、冬期間の交通事故の未然防止に努めております。

5. 最後に

本県においては、北陸新幹線開業に備え、着実に道路整備を進めてきており、県下全域に大きな効果をもたらしました。一方、開業後は、想定を超える多様なニーズが発生しており、開業効果を持続的なものとするため、そのニーズを適切に把握し対応する必要があります。昨年度より、県内道路に関する満足度や改善点等をアンケートにより意見を頂きながら道路整備に反映させる「いしかわ道の通信簿」を作成しているところであり、今後とも、道路利用者や本県を訪れる方々の意見を踏まえた、適切な道路整備により、通信簿の成績が右肩上がりになるよう努めて参りたいと考えています。